

2024年4月

No. 76

書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

継続は力なり



月刊
一凛



夢は美しーすがよい

希望は高きがよい

夢も希望も捨てなければ

必ず近づいてくる

目的は高きがよいそのための

一里塚として目標を定めよう

そーそそのために時を

刻まがよい



月刊一凛 No.76 (2024年4月)

《競書審査員》佐々木峯雲

《発行》書道教室 一凛 薬院

《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<https://www.shodo-ichirin.com/>

墨を擦る

文・岡田 雄希

以 前、引越しのための断捨離をして、私物をまとめて捨てた。転勤が多い会社員だった私はほとんど何もせず、カミさんに任せっきりだった。今回の転居でもほとんどカミさんに指揮されて荷物の整理をした。自分の意思を買けたのは蔵書だけだった。机の横にこじんまりと小さな本棚に収まっている。

少年時代から節目節目で読んでいるモンテ・クリスト伯に加え、村上春樹の短編集、そして私が勝手に「文章の師匠」と思っている沢木耕太郎全集がかなりのスペースを占拠している。沢木全集の第一巻は「激しく倒れよ」というルポルタージュ集だ。ページを開くと懐かしい東京キーン局のTBSが発行していた月刊誌「調査情報」に連載された作品がまとめて掲載されている。私は大学の研究室に、この月刊誌がバックナンバーを含めて山積みになっていたのを教授の了解を得て持ち帰っていた。沢木耕太郎という無名の若手ライターがスポーツをテーマにしたルポルタージュを載せていたからだ。沢木氏のルポは、取材対象と自分を絡めることでテーマを浮かび上がらせる日本語で言えば私小説ならぬ「私ルポルタージュ」という書き方をしている。

決して やっカミでは ありません

た。それは米国で流行していた「ニュージャーナリズム」という手法で文体も取材手法も、後の私に「はしか」のように伝染した。何より沢木氏の文体は平易でわかりやすかった。抽象表現を極力避けて、具体的な言葉を使うことに徹している。新聞記者時代に「あなたの文体は沢木耕太郎に似ている。深夜特急を読み耽ったんだろう」と言われたことがある。正直言えば「この文体は役に立つ！」と書道の臨書ではないが原稿用紙に書き写していたこともある。その後書籍化されてベストセラー作家になった時は自分が第一発見者だと主張したかったほどだ。

夜中にふと沢木耕太郎作品を読み返すと、青春時代に返ることがができる。全集の中でも沢木氏が書いているが、調査情報編集部的小部屋で幾晩も徹夜で書き直しをさせられたそう。私は新聞記者として文章を生業にする前に沢木耕太郎が苦勞に苦勞を重ねて書いた珠玉の文章を耽読し、書き写して修行していた。だから「師匠」とも言える存在だ。沢木氏は年齢を重ねて小説を書くようになったが少しカッコつけすぎな気がする。師匠に齒向かうように申し訳ないが、本人がハンサムなせいかな？ 決してやっカミではありません。

おかだ・ゆうき／
昭和33年3月20日、
北九州市生まれ。平成
23年12月に一凛に入
門。趣味は自転車と
酒を飲むこと。酒は誘
われたら断らないが
モットー。

【四季と書と】

「人生の扉」

竹内 まりや

春がまた来るたびひとつ年を重ね
目に映る景色も少しずつ変わるよ
陽気にはしゃいでた 幼い日は遠く
気がつけば五十路を越えた私がいる
信じられない速さで時は過ぎ去ると

知ってしまったら
とくなくさなことも覚えていたいと心が言ったよ

I say fun to be 20
You say it's great to be 30
And they say it's lovely to be 40
But I feel it's nice to be 50

満開の桜や色づく山の紅葉を
この先いつか何度見ることになるだろう
ひとつひとつ人生の扉を開けては感じるその重さ
ひとりひとり愛する人たちのために
生きてゆきたいよ

I say it's fine to be 60
You say it's alright to be 70
And they say still good to be 80
But I'll maybe live over 90

君のデニムの青があせてゆくほど
味わい増すように
長い旅路の果てに輝く何かか
誰にでもあるさ

I say it's sad to get weak
You say it's hard to get older
And they say that life has no meaning
But I still believe it's worth living

《英文歌詞和訳》

20歳になった時はすべてが楽しかったわね。あなたは「素晴らしいのは30歳よ」と言うし、みんなは「自分を愛おしく思えるのは40歳よ」と言うけど、でも50歳も悪くないわよ。

「元気な60歳になりたいわ」と言ったら、あなたは「70歳になっても大丈夫よ」と言うし、みんなは「80歳になったってまだまだ楽しいわよ」と言うけど、でも私は90歳を過ぎても生きていくつもりなのよ。

歳を重ねて弱っていくのは悲しいことだって言えるかもね。あなたも「老いていくのは辛いことよね」と言うし、みんなも「人生には何の意味も無いのよ」と言うけど、それでも私は「生きることは価値があること」だって信じているの。

此の頃はこの歌の詩のすべてが心に沁み入ります。

今年も桜を愛でる季節がやって来ました。齢60歳を過ぎた頃から、「あと何度桜を楽しむことができるのかな」としみじみ思いながら桜を眺めるようになりました。

代わり映えのしない平凡な日々があつという間に過ぎていくことに驚かされませんが、「今日一日を大切に生きよう」という気持ちだけは忘れないようにと心に誓うようになりました。

これまで何一つ世の中の役に立つてこなかったことを反省し、身近な人たちに出来るだけのことをして「生きていきたい」と思うようになりなりました。

「長い旅路の果てに輝く何か」私にも残せるように、これまで以上に自分を律して精進していなければいけないと思うようになりました。

佐々木峯雲

4月分課題

4月分課題は5月9日(木)が提出期限予定です。
諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。
みなさん、今月も頑張りましょう。

硬筆

かな

漢字

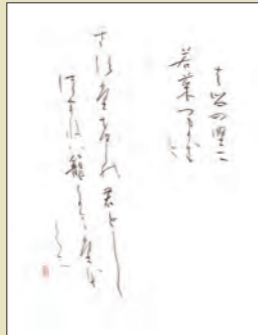
地震や津波が起ると名言「天災は忘れた頃にやってくるが必ず引き合に出される。これは本当に適切な予防措置はあつたという警告だ。だから人々は語り継いでいるのだ。」

初段以上

「これはなぜこうなっているんだろうどうしてこう呼び方をするんだろう。そんな好奇心に駆られて詳しく調べたおかげは、いざというとき相手にわかりやすく説明できる。」

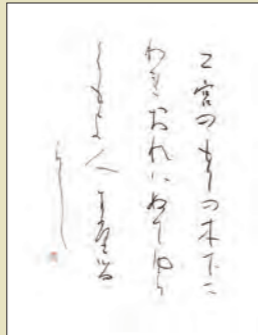
10級~1級

春の野に若菜摘まむとさすすたけの君としつまねば籠にみたなくに
(良寛)



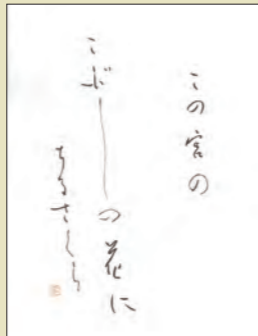
六段以上

乙宮の森の木下に我居れば
鐸ゆらぐもよ人来るらし
(良寛)



初段~五段

この宮のこぶし(辛夷)の花に散るさくら
(良寛)



10級~1級



六段以上(草書)



初段~五段(行書)



10級~1級(楷書)

- 配布された手本に間違いがないか、上記課題一覧を必ず確認してください。
- 硬筆の添削に関して
初段以上の方の添削は毎月1回限りとします。
十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

何気ない日常の、何気ないやりとり。

さふらふ 23

拝啓 麗日の候

物価高騰、株価上昇などお金にまつわるニュースをよく目にしますが、キャッシュレス時代の現代に行われる紙幣のデザイン変更も気になります。先生はお金について、キャッシュレスについてどうお考えですか？

渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎の新紙幣が7月3日に発行されますが、世の中はキャッシュレスへ突き進んでいるようです。

「最近はお金を持ち歩かないねえ。現金で支払うのは駐車料金を払うとき位いかな。」地元で有名なタレントがFMの番組でなんとも誇らしげに(私にはそう聞こえました)言っていました。それを聞いた超アナログな私は「俺はいまだに現金主義だよ!」と心の中で言い換えました。しかし、「スマホでの支払いに慣れてしまうと現金を持たなくなりましたねえ」と、最近、タレントと同じような言葉を教室内で耳にしました。

そこで無作為に教室で意見を聞いてみると、私が思っている以上に諸々の支払いにスマホ決済が浸透しているようです。

コロナ後、政府はデジタル庁を設置して社会全体のデジタル化を推進しようとしています。しかし、どんなにデジタル化が進もうと頑なに電子決済を拒み続けて無くしたくないと考えているものがあります。それは『月謝袋』。毎月初めに皆さんから頂く受講料に対して常に感謝の気持ちを忘れたくないと思っているからです。電子決済や口座振替では、こう言った気持ちのやり取りが希薄になるのではないかと私は思っています。

六月末に新天町のギャラリーにおいて凛然作品の展示会を開催予定です。その関係で必要に迫られて一凛も遅まきながら電子決済の加盟店になりました。あれば使いたくなるのが人情というもの。いつまでも『月謝袋』にこだわり続けることが出来なくなる日がやって来るのでしょうか。『今月の月謝をお払います』『いつもありがとう。じゃあお願いします。』『PayPay』。



COVER ART
Miki Araki

いちりん で 伝える。いちりん で 繋がる。

イチリングラム
Ichiringram

北海道旅行に行ってきました

水曜日 Cクラス
松田 智香



1月、人生初の北海道旅行に2泊3日で行ってきました。

降り積もった雪の中で社会生活を営み、屋根や歩道の雪かきをする忍耐強さ。雪でもヒールや革靴で歩いている(何なら小走り)。薄着でマフラーも巻いていない(後に、屋内が暑いから厚着は禁物だと知る)など、九州育ちの私には、ちょっとした海外旅行のように新鮮でした。旅行の中日はかなり吹雪いていましたが、なにせ経験が無く「これが北海道の普通なのだろう」と思い、かなり深い時間まで札幌の夜と海産物を堪能しタクシーに乗り込むと、「こんな日に出歩くもんじゃない。命の危険に関わるよ。」という年をして怒られる始末。聞けば、暴

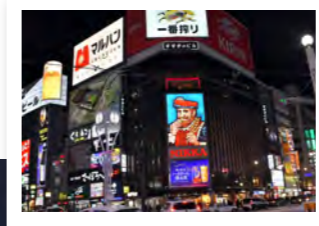
風雪で翌日の道内の学校は休校が発表され、既にキャンセルが決まっているフライトもあるとのこと。翌日帰福予定だったので、一気に酔いが覚めました。幸い私たちのフライトは、搭乗後1時間半機内で待たされたものの、無事福岡に帰ることが出来ました。旅のお供一眼レフカメラを連れて行きましたが、雪景色を撮るのは初めてで全然上手く撮れず、元々の目的が食い倒れだったため、一眼レフはリュックの中でただのお荷物となっていました。ということで、景色以外の写真は全てスマートフォンです。やはり、スマートフォンは最強です。



KANPAI!

Delicious!

beautiful



I love it

